

随 想

筑波大学TARAプロジェクト —インターネットを利用した予約システム—

佐々木 教祐

12月9日の朝日新聞のウイークエンド経済の欄に「大学教授、成果なければクビ」という大きな活字が踊っており、「大学の先生の首筋が寒くなっています。」という書き出しで筑波大学の先端学際領域研究センター（TARA）の紹介がされておりました。1992年に就任した江崎玲於奈学長の打ち出した、先端分野の研究を活発にするために、外部からの評価を伴う「徹底した競争原理の導入」が基本方針になっている。7つに分けた研究領域ごとに教授が公募され、26カ国187人の応募があった。その結果、学内3人、学外4人その内米国人1人が選ばれ、これら7人の教授は、「7年間で研究の成果が出なければ、筑波大学を去る」という念書を出したという内容である。

私は、このプロジェクトの一つ「放射光X線による生命機能維持物質の結晶構造と利用基盤に関する研究」の客員研究員を江崎学長から委嘱されており少なからず関心があったわけです。このプロジェクトは、筑波の高エネルギー物理学研究所のシンクロトロンを利用して、企業も含めた研究者が共同してタンパク質などの生命機能維持物質の構造をX線結晶構造解析法で解明していこうというものです。

まずタンパク質の構造解析を行うには、シンクロトロンによって作られる強力なX線（放射光）を使ってデータを収集するわけですが、利用できる施設が世界中でも数が少なく、使用時間を確保することは大変なわけです。今度このTARAが作るハッチ（放射光を使ってデータを測定する装置の置いてある部屋）の使用予約システムを私が中心になり、インターネットを使ってWWWで直接ユーザーにやって貰う計画を立て、名古屋大学医療技術短期大学部の「健康文化」の雑誌入っている同じコンピュータを使って行うことにしました。外国の人も国内の人も平等に利用でき、利用状況も常時見ることができるので大変期待されています。インターネットに繋がっていれば、コンピュータが何処にあっても気にすることなく利用できるわけで、これからのモデルケースになっていくと思います。

（名古屋大学医療技術短期大学部教授）